

PRESS RELEASE

2022.9.22

桃源郷通行許可証

Passport to Shangri-la

2022年10月22日（土）-2023年1月29日（日）

埼玉県立近代美術館

■ 開催概要

桃源郷は、中国の詩人・陶淵明が記した物語「桃花源記」に由来する、理想と平和の土地です。「桃花源記」では、武陵に暮らすある漁師が舟を漕ぐうちに、林の奥の桃源郷へとたどり着きます。そこは、世俗とは隔絶された穏やかな時間が流れる美しい世界でした。

古今東西の芸術作品を鑑賞するということは、私たちが今立つ地点から遠く離れた時間や空間を経験するということでもあります。現実の奥深くに、現在の時空間から解放された「桃源郷」があるとしたら、芸術作品は「桃源郷」への扉を開くための「通行許可証」のようなものであるといえるでしょう。日常と非日常の裂け目から目に見えないものを想像したり、別の世界を経験したりすること。私たちが様々な時空間を自在に行き来することを願うとき、芸術作品は多くの示唆を与えてくれます。

「桃源郷通行許可証」は、多様な時代、ジャンルの作品と埼玉県立近代美術館のコレクションとの遭遇を通じて、時空を超えた芸術作品の魅力を探る展覧会です。展示の中心となるのは、絵画、写真、ドローイング、インスタレーションなど、それぞれの手法を用いて、日常や現実のはざまに潜在する事象を繊細に掬い取る6名の作家の作品と、当館のコレクションとが出会うことで生まれる空間です。作家や作品同士の対比、テーマによる対照、意外な組み合わせなど、様々な角度から構成される本展覧会は、コレクションに新たな光を当てるとともに、幅広い世代の作家たちの現在地に立ち会う機会となるでしょう。

*展覧会タイトル「桃源郷通行許可証」は出品作家・松井智恵の作品に由来しています。

■ 展覧会の見どころ

1. 現代作家×MOMAS コレクション！幅広い世代、ジャンルの6名の作家が新作・近作を中心に作品を出品し、当館のコレクション等と組み合わせた展示空間を構成します。現代作家による会場構成は本展覧会の大きな見どころです。
2. 6名の作家のセクションの間には、桃源郷を画題にした近世絵画から現代美術まで、コレクションを中心に借用作品を交えて、私たちが様々な時空間へと導く美術作品を紹介し、時空を超えた芸術の魅力を探ります。
3. 会期中、出品作家と多彩なゲストをお招きするアーティスト・トークなど、関連イベントを実施予定です。詳細は、当館ホームページでお知らせします。

■ 開催情報

展覧会名	桃源郷通行許可証
会 期	2022年10月22日（土）－2023年1月29日（日） 会期中一部作品の展示替があります。 [前期：12月4日（日）まで 後期：12月6日（火）から]
休 館 日	月曜日（11月14日、1月9日は開館）、12月26日（月）－1月3日（火）
開館時間	午前10時－午後5時30分（展示室の入場は午後5時まで）
観 覧 料	一般1,200円（960円） 大高生960円（770円） （ ）内は20名以上の団体料金 中学生以下と障害者手帳をご提示の方（付き添い1名を含む）は無料です。 併せてMOMAS コレクション（1階展示室）もご覧いただけます。
主 催	埼玉県立近代美術館
協 力	J R東日本大宮支社、F M N A C K 5、浦和 PARCO
助 成	芸術文化振興基金

■ 会場・交通案内

埼玉県立近代美術館

〒330-0061 さいたま市浦和区常盤9-30-1 TEL: 048-824-0111 FAX: 048-824-0119

<https://pref.spec.ed.jp/momas/>

- ・JR 京浜東北線北浦和駅西口から徒歩3分（北浦和公園内）。
JR 東京駅、新宿駅から北浦和駅までそれぞれ約35分。
- ・当館に駐車場はありませんが、提携駐車場「三井のリパーク 埼玉県立近代美術館東」では駐車料金の割引があります（企画展観覧で300円引き、MOMAS コレクション観覧で100円引き）。
- ・団体バスは事前にご相談ください。
- ・お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたします。ただし台数に限りがありますので事前にご連絡をお願いします。

■ 出品作家×MOMAS コレクション

本展覧会では、6名の現代作家と当館のコレクション等を組み合わせた展示を行います。
組み合わせと現代作家のプロフィールは次のとおりです。

稲垣美侑×駒井哲郎

稲垣美侑 INAGAKI Miyuki | 1989年神奈川県生まれ。東京藝術大学大学院博士後期課程博士号取得。庭や空き地、住居等をモチーフに、土地や風景、個人との相互作用的な関係性によって生起されるイメージを考察し、ペインティングやインスタレーションによって再構築する。近年の展覧会に、「息をする」(2022年、Gallery Gigi)、「ぐぜり Subsong」(2021年、CLEAR GALLERY TOKYO)、「パランドスケープ“風景”をめぐる想像力の現在」(2019年、三重県立美術館／グループ展)など。

佐野陽一×斎藤豊作

佐野陽一 SANO Yoichi | 1970年東京都生まれ。東京造形大学卒業後、同研究生修了。ピンホール・カメラの原理を援用した手法で、山や湖畔、池、木漏れ日、温室などを被写体に、刻一刻と移ろい揺らぐ光の表情を捉えた写真作品を制作する。近年の展覧会に「錐の筈 II」(2022年、GALLERY TAGA2)、「逍遙」(2014年、switch point)「『刹那』よ『生まれ、お前はいかにも美しいから』」(2015年、文京区立森鷗外記念館／グループ展)など。

東恩納裕一×マン・レイほか

東恩納裕一 HIGASHIONNA Yuichi | 1951年東京都生まれ。日常的なインテリアや日用品に潜む違和感を、LEDや蛍光灯を使ったオブジェ、スプレーペインティング、アニメーションなど様々なメディア、手法を用いて複層的に表現する。近年の展覧会に、「Large Interior」(2021年、void+)、「OAA #2」(2020年、KOCA)、「Play Double」(2022年、heimlichkeit Nikai／二人展)など。

文谷有佳里×菅木志雄

文谷有佳里 BUNYA Yukari | 1985年岡山県生まれ。東京藝術大学大学院修士課程修了。愛知県立芸術大学作曲専攻在学中にドローイングの制作を始める。ペンや鉛筆、カーボン紙を用いて即興的に様々な種類の線を描出し、紙上に身体的な空間を表出させる。近年の展覧会に、「文谷有佳里展」(2021年、Art Space & Cafe Barrack)、「トランス／リアルー非実体的美術の可能性 vol.6 文谷有佳里」(2016年、Gallery αM)、「ONーものと身体、接点から」(2022年、清須市はるひ美術館／グループ展)など。

松井智恵×橋本関雪

松井智恵 MATSUI Chie | 1960年大阪府生まれ。京都市立芸術大学大学院修了。写真、映像、ドローイングなど幅広いメディアを用いて、詩的な物語を喚起させるインスタレーション作品を手がける。SNS(インスタグラム、フェイスブック)に毎晩一枚ずつ、「一枚さん」を公開中。近年の展覧会に、「今年の絵の仲間たち」(2021年、MEM)、「道後オンセナート 2018 ホテルプロジェクト『青蓮丸、西へ』」(2018年、湯の宿さち家)、「関西の80年代」(2022年、兵庫県立美術館／グループ展)など。

松本陽子×菱田春草ほか

松本陽子 MATSUMOTO Yoko | 1936年東京都生まれ。東京藝術大学卒業。1967年から翌年にかけて滞在したアメリカでアクリル絵具に出会い、帰国後本格的に制作に着手する。1980年代から90年代にかけてピンクを主調とした独自の抽象絵画を確立する。2005年以降、再び油彩画を制作する。近年の展覧会に「熱帯」(2021年、日本橋高島屋美術画廊 X)、「光：松本陽子／野口里佳」(2009年、国立新美術館／二人展)、「モネ それからの100年」(2018年、横浜美術館、名古屋市美術館／グループ展)など。

■ 関連イベント

ミュージアム・カレッジ 2022「トランジット—新たな敷居学の提案」

本展覧会にちなみ、埼玉大学教養学部と埼玉県立近代美術館が共催する公開講座です。

各日とも 15:00～16:30（開場は 14:30）／2 階講堂／定員 60 名（当日先着順）／料金：無料

① 11/19（土） 現代作家×コレクション—企画展「桃源郷通行許可証」について

嶋原 悠（当館学芸員）

② 12/3（土） 歌舞伎と女—初代中村仲蔵の母おしゅんの業績

トーヴェ・ビュールク（埼玉大学大学院人文社会科学研究科 教授）

③ 12/10（土） 老荘思想の基本問題—政治思想を中心に

西山尚志（埼玉大学大学院人文社会科学研究科 准教授）

④ 12/18（日） 境界を生きる現代アメリカのアーミッシュ

野村奈央（埼玉大学大学院人文社会科学研究科 准教授）

お問い合わせ：埼玉大学総務部広報渉外課「ミュージアム・カレッジ担当」Tel.048-858-9213

*その他、出品作家のアーティスト・トークなど関連イベントを実施予定です。

詳細は当館ウェブサイトでお知らせします。

■ スライド・トーク

ご希望のグループにスライドを使って本展覧会の見どころをご案内します（予約制）。

お問い合わせ・ご予約は教育・広報担当（電話 048-824-0110）まで。

■ 同時開催

MOMAS コレクション（1 階展示室）

第 2 期 | 2022 年 9 月 3 日（土）—11 月 27 日（日）

「セレクション」「さいきんのたまもの」「月を待つ—日本画の夜景」

第 3 期 | 12 月 3 日（土）—2023 年 2 月 26 日（日）

「セレクション」「まるく／まわる」

■ 新型コロナウイルス感染症防止対策について

ご来館にあたっては、新型コロナウイルス感染症防止対策にご理解とご協力をお願いいたします。

状況により休館および会期変更の可能性があります。ご来館前に当館ウェブサイトで最新情報をご確認ください。

■ お問い合わせ

展覧会担当：嶋原、吉岡、篠原／広報・画像に関してのお問い合わせ：真中

TEL: 048-824-0111（代表）／048-824-0110（学芸直通） FAX: 048-824-0118

■ プレスカンファレンス

2022年10月22日（土）午後5時30分ー（受付開始：午後5時）

埼玉県立近代美術館2階講堂

上記の日程で、プレスカンファレンスを開催いたします。

参加ご希望の方は、kouhou@aria.ocn.ne.jp（広報担当・真中）までメールでお申し込みください。

貴社名、お名前、取材スタッフの人数、テレビカメラの有無をお知らせください。

■ 広報用画像

- ・画像のご提供については、当館にお問い合わせください。当館から画像をデータにてご提供いたします。ご請求は kouhou@aria.ocn.ne.jp（広報担当・真中）まで、メールでお願いいたします。
- ・画像を掲載する場合、キャプションを記載してください。また作品部分のトリミング、文字載せなどはしないようお願いいたします。
- ・画像を掲載する場合、掲載誌を1部、広報担当までお送りください。
- ・「2. 駒井哲郎《時間の迷路》1952年」の画像の利用可能期間は、本展覧会終了日（2023年1月29日）までです。この画像をウェブ媒体に掲載した場合は、本展覧会終了後、当該ウェブ媒体からこの画像を削除してください。

■ キャプション

1. 稲垣美侑《Largo（幅広くゆるやかに）》2020年、作家蔵
2. 駒井哲郎《時間の迷路》1952年、埼玉県立近代美術館蔵 ©Yoshiko Komai 2022/JAA2200110
3. 佐野陽一《flow》2015-17年、作家蔵
4. 斎藤豊作《フランス風景Ⅱ》1910年頃、埼玉県立近代美術館蔵
5. 東恩納裕一「Large Interior」会場風景（void+、2021年）Photo by Masatoshi Mori, Courtesy: void+
6. マン・レイ《レイヨグラフィ》1921-22年頃（1963年プリント）、埼玉県立近代美術館蔵
（紙媒体）©MAN RAY 2015 TRUST/ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2022 X0085
（ウェブ媒体）©MAN RAY 2015 TRUST/ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2022 X0089
7. 文谷有佳里《drawing 2022.6.25》2022年、作家蔵 Photo by ToLoLo studio
8. 菅木志雄《四囲分集》1994年、埼玉県立近代美術館蔵
9. 松井智恵《青蓮丸、西へ》（部分）2018年、作家蔵 ©Chic Matsui, Courtesy of MEM
10. 橋本関雪《春秋山水》制作年不詳、埼玉県立近代美術館蔵（展示期間 | 2022/10/22-12/4）
11. 松本陽子《黒い岩》1990年、東京都現代美術館蔵
12. 菱田春草《湖上釣舟》1900年、埼玉県立近代美術館蔵（展示期間 | 2022/12/6-2023/1/29）

※ 2. 駒井哲郎をウェブ媒体に掲載した場合は、本展覧会終了後（2023年1月29日）、当該ウェブ媒体から画像を削除してください。

※ 6. マン・レイは画像を掲載する媒体（紙媒体かウェブ媒体）によりクレジット表記が異なります。

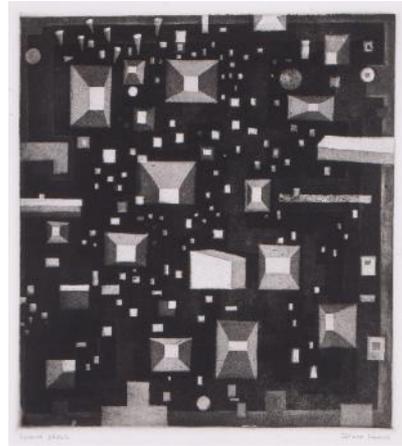
※ 10. 橋本関雪と12. 菱田春草は半期展示となります。

※ その他の作品画像をご希望の場合はお問い合わせください。

広報用画像一覧



1. 稲垣美侑《Largo (幅広くゆるやかに)》
2020年、作家蔵



2. 駒井哲郎《時間の迷路》1952年、埼玉県立近代美術館蔵 ©Yoshiko Komai 2022/JAA2200110



3. 佐野陽一《flow》2015-17年、作家蔵



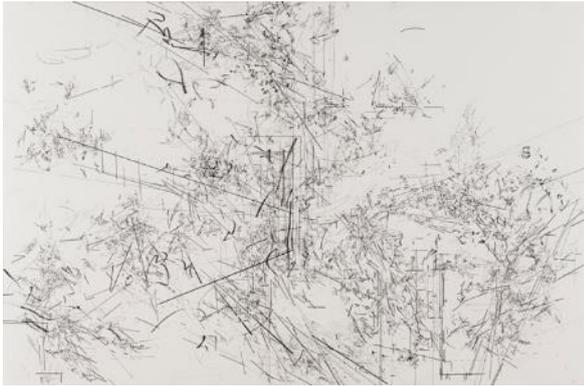
4. 斎藤豊作《フランス風景Ⅱ》1910年頃、
埼玉県立近代美術館蔵



5. 東恩納裕一「Large Interior」会場風景
(void+、2021年) Photo by Masatoshi Mori,
Courtesy: void+



6. マン・レイ《レイヨグラフ》1921-22年頃
(1963年プリント)、埼玉県立近代美術館蔵
(紙媒体) ©MAN RAY 2015 TRUST/ADAGP, Paris & JASPAR,
Tokyo, 2022 X0085
(ウェブ媒体) ©MAN RAY 2015 TRUST/ADAGP, Paris &
JASPAR, Tokyo, 2022 X0089



7. 文谷有佳里《drawing 2022.6.25》2022年、作家蔵 Photo by ToLoLo studio



8. 菅木志雄《四囲分集》1994年、埼玉県立近代美術館蔵



9. 松井智恵《青蓮丸、西へ》(部分) 2018年、作家蔵 ©Chie Matsui, Courtesy of MEM



10. 橋本関雪《春秋山水》制作年不詳、埼玉県立近代美術館蔵 (展示期間 | 2022/10/22-12/4)



11. 松本陽子《黒い岩》1990年、東京都現代美術館蔵



12. 菱田春草《湖上釣舟》1900年、埼玉県立近代美術館蔵 (展示期間 | 2022/12/6-2023/1/29)